様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：４２６３９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０１９０２

研究課題名（和文）多文化コミュニティにおける外国人の子どもの発達を保障する保育システムの構築

研究課題名（英文）Development of a childcare system to construct the development of foreign children in multicultural communities

研究代表者
林　恵（Hayashi, Megumi）

帝京短期大学・帝京短期大学・教授

研究者番号：６０７５９３８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：外国人の子どもの母語獲得と保持について、多文化保育研究会を通して保育者がその重要性を認識した。この研究会は、研究者と保育者が情報を共有する場となった。また、外国人保護者への質問紙調査により、保護者の日本での子育ての現状と課題を明らかにした。保育者養成課程では、質問紙から学生の多文化理解の現状を把握するとともに、多文化理解を促す授業実践を行った。
さらに、ドイツNRW州で現地調査を行い、就学前教育改革と多文化共生保育の実践について明らかにし、日本での多文化保育への示唆を得た。また日本の保育施設に勤務する外国人保育者の語りから、母国言語の習熟度と管理職の対応がキャリア形成過程に関連することを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は今後確実に増加する日本語を母語としない子どもたちとその保護者への支援について保育理論と実践を融合させることを目的としたものである。群馬県大泉町において多文化保育研究会を実施し、国際化が進む日本の保育現場で保育士、研究者、地域、行政、外国人保育者が多文化保育の実施に必要な知識や技能を検討し共有した。また、移民を多く受け入れているドイツの外国人の子どもの保育実践の方法についても明らかにし、今後の日本の多文化保育の方策に示唆を与えた。さらに外国人保育者が保育所等で活躍できる環境について明確にしたことは、今後保育現場に勤務する外国人保育者と管理職に大きな示唆を与えるものであると考える。

研究成果の概要（英文）：Many childcarers gradually recognized the importance of mother tongue acquisition and preservation through multicultural childcare workshop. This workshop became a place for researchers and childcarers to share information. It became clear about current state and problems of the child rearing in Japan according to results of questionnaire surveys to foreign guardians. Multicultural understanding of the students who study childcare was grasped from a questionnaire and set up multicultural classes to promote a multicultural understanding.
In Nordrhein Westfalen of Germany, we conducted a field survey and clarified the preschool educational reform and the practice of multicultural childcare. The results gave a suggestion on multicultural childcare in Japan. According to narratives of three childcarers who work in Japanese childcare centers, it showed that the degree of proficiency in the native language and the correspondence of the management are related to the career formation process.

研究分野：子ども学

キーワード：多文化保育　多文化共生　外国人保育者　移民の教育・保育　外国人集住地域

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1) 1990 年の出入国管理法及び難民認定法改定以降、外国人集住地域における問題が顕在化してきた。内閣府は「目指すべき日本の未来のすがたについて」（平成 26 年）において、技能者や技術者を中心に年間 20 万人の移民の受け入れも日本の選択の一つだとし、日本は多文化社会を受け入れ、共生の道を切り開かなければならなくなった。そのために当時、外国人人口比率が最も高い群馬県大泉町がモデルとなることを目指し、特に就学前の子どもとその家族への支援方法と、多文化理解を推進するための保育・教育カリキュラムの構築が必要だと考えた。

(2) 大泉町の保育所保育士は当時日本語や慣習を獲得することが重要だと考え、いわば日本人化を進める保育をおこなっていた。外国人の保護者は言葉に不安を感じ、日本語獲得のために日本の集団生活に参加させる考えと、言語や環境の違いで苦労しないよう外国人学校を選択する考えに分かれていた。また、外国人保育者が保育所に就職する場合があり、保育を行うことで外国人の子どもたちや保護者との情報伝達がスムースに行われるようになっただけではなく、園全体の保育の質の向上につながったことがわかっていた。

(3) 移民を多く受け入れてきたドイツでは、移民とネイティブとの子どもの学力の格差を問題視し、就学前教育において、移民を含めた子どもにドイツ語能力を育成するためのカリキュラムや、保護者への支援を組織的に実践していた。日本もドイツと同様の状況に陥ることが予想されるため、外国人親子に関する課題の明確化や支援についての検討、特に就学前の外国人の子どもたちへの支援は喫緊の課題であり、外国人の子どもの発達を保障する保育方法を確立することが急務であると考えた。

２．研究の目的

(1) 実態調査による外国人の子育て支援ニーズを明確にし、実践的な支援方法を構築する。

(2) 多文化保育研究会をとおして、保育者と研究者が保育現場の問題を総合的にとらえ、実践に繋げる。

(3) 保育者養成校で学ぶ学生の多文化共生意識を明確にし、多文化理解に関する力を効果的に養う方法を模索する。

(4) 外国人保育者の意義を明確化し、外国人保育者育成のための支援方法を検討する。

(5) 他の集住地域とのネットワークを形成、協働し、効果的な保育の在り方を明らかにする。

ドイツを中心とした海外の移民施策の情報(1)から(4)の成果を基に多文化共生保育のシステムのモデル化を試みる。

３．研究の方法

多文化保育の現状を把握し、ドイツ調査も踏まえその課題を明確化すると共に、外国人の子どもの発達を保障する保育の実践方法を以下の 5 つの方法で構築する。(1)外国人家庭の子育て支援ニーズを把握し、ニーズに応える場として「わくわく広場」の実施。(2)「大泉町多文化保育研究会」で保育理論の構築と実践を往還することで、有効な支援モデルを構築する。(3)保育現場との協働により保育現場の抱える諸問題の実態把握および学生への調査により、多文化理解を促進するカリキュラムの作成を試みる。(4)外国人保育者に関するこれまでの調査を精査し、他の外国人集住地域での現地調査により、外国人保育者の育成方法の構築を目指す。(5)他の外国人集住地域との連携を図り、モデルケースの提示を試みる。

４．研究成果

(1) 大泉町のイベント「グルメ横丁」において、遊び広場である「わくわく広場」を開催、ボトムアップ的に作り出す共生社会の在り方を模索した。この活動は後に NPO 法人の設立へと展開した。また、保育園に通う外国人の保護者へ質問紙調査を実施した。多くの保護者は家庭では母語と日本語を使用し、子どもたちは十分な日本語を獲得していると考えている。しかし、就学後に必要な日本語の読み書きが十分とはいえず、ダブルリミテッドバイリンガルに陥る可能性が大きいため、保護者や関係者はダブルリミテッドバイリンガルについての知識を持つ必要がある。また、子どもたちが日本語の読み書きの機会を得られるような場や、保護者の不安を軽減させるために、学校のシステム等について、詳しい説明と相談を受けられる継続した場が必要であることが示唆された。

(2) 第 3,4,5 回「大泉町多文化保育研究会」を開催した。第 5 回研究会では保育者、行政職員、研究者等 41 名が参加した。ドイツの教育の例を紹介し、保育者と今後の多文化保育の在り方について検討、また外国人保育者３名が話題提供者として参加、当事者として多文化保育の課題をあげ、参加者と共有した。保護者への対応について、一定の距離感を保ちつつも不安には寄り添おうという姿勢や、関係機関へ保護者と同行するなど、踏み込んだ支援の具体例を挙げ、これらは外国人保護者の不安の高さと具体的支援の方法を示すこととなった。また、「外国にルーツのある子どもたちの育ち～保育者の方へ・言語習得編～」を作成し、外国人の子どもの母語獲得と保持について議題として取り上げ、保育者がその重要性を認識し、研究者と保育者、行政が情報を共有する場となった。

(3) 保育者養成課程に設置された多文化保育の授業実践をとおして学生がどのように多文化理解を進めているのかを明らかにした。外国人に対する負の印象をもつ学生もいたが、実際に外国人の子どもが在籍する保育園や町のイベントに参加することでほぼ全員の学生が多文化保育

に理解を深めたと答え、意識に変化が見られた。
(4) TEM を用いて 3 名の保育者（南米からの日系移民）の語りを可視化することで、アイデンティティの揺れを含むキャリア形成の過程を提示した。これにより、「母国語が話せる」「類似の背景をもつ移民の子たちへの共感的理解ができる」ことの、役割意識への影響が描出された。そして、諸言語への自信の程度が、キャリア形成に影響した可能性がある。また、来日第二世代保育者（子どもとしての来日経験をもつ保育者）への優れた通訳者としての期待が、大きな負担感につながっていた。したがって、このような難しさを理解することが、来日第二世代保育者を支えることにつながることが示唆された。
(5) 米国、香港、ドイツなどの各国の移民集住地域の様子や施策について現地調査から比較をおこない、日本の多文化保育との違いを明らかにした。国内の外国人集住地域の研究者とのやり取りから共通した課題は明確になりつつあるが、外国人の子どもと発達障害との関係が新たな課題として浮かび上がってきた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 9 件）

① 佐々木由美子，林恵　さまざまな国における保育実践と制度 足利短期大学研究紀要 39(1) 27-35 2019 年
② 佐々木由美子，林恵　大泉町多文化保育研会第 5 回シンポジウム報告　足利短期大学研究紀要 39(1) 75-82 2019 年
③ 佐々木由美子，林恵　大泉町多文化保育研会第 4 回シンポジウム報告　足利短期大学研究紀要 38(1) 77-86 2018 年
④ 林恵、佐々木由美子、卜田真一郎、戸田有一　来日第二世代保育者におけるアイデンティティの揺れとキャリア形成のナラティブ：TEM による描出と考察 保育学研究 56(2), 223-234,(日本保育学会）2018 年【査読あり】
⑤ 林恵　外国人の子どもの発達を保障する保育:言語を中心として:群馬県大泉町における取り組みから　地域ケアリング 20(9)，63-65,（北隆館） 2018 年【査読あり】
⑥ 佐々木由美子，林恵，岡本拡子　大泉町多文化保育研会第 3 回シンポジウム報告　足利短期大学研究紀要 37(1) 103-108 2017 年
⑦ 林恵　外国にルーツがある子どもの就学に向けた子どもと保護者への支援:外国人保護者への調査から　帝京短期大学紀要 (19) 33-42 2017 年
⑧ 佐々木由美子，関口吉運，林恵，岡本拡子 ドイツ NRW 州における就学前教育改革と多文化共生保育実践　保育学研究 55(2)，110-121,（日本保育学会）2017 年【査読あり】
⑨ 佐々木由美子，林恵，塩澤恵美，岡本拡子　遊び広場の活動が多文化コミュニティにもたらしたもの:運営者の意識変容に着目して　地域福祉サイエンス (3) 1-8 2016 年【査読あり】

〔学会発表〕（計 12 件）

① 企画・話題提供：藤田清澄・林恵・香曽我部琢・亀井美弥子　指定討論者：戸田有一・諏訪きぬ 「キャリア形成における自己と感情　自己の世界の変容をどのようにモデル化するのか」日本発達心理学会 30 回大会　ラウンドテーブル話題提供　2019 年
② 企画・司会：芦澤清音　話題提供：五十嵐元子・三山岳・林恵・山本理絵　指定討論：浜谷直人・戸田有一「障害と多文化を包括するインクルーシブ保育の可能性」日本保育学会 71 回大会　シンポジウム話題提供　2019 年
③ 企画者：卜田真一郎　司会者：戸田有一　話題提供者：佐々木由美子・林恵・卜田真一郎 指定討論者：杉浦 俊太郎「保育現場におけるイスラームとの共生の模索Ⅲ」乳幼児教育学会第 28 回大会　シンポジウム話題提供　2018 年
④ Yumiko Sasaki・Megumi Hayashi・Hiroko Okamoto　Childcare in the Town with the Highest Foreign Population Ratio in Japan　European Early Childhood Education Research Association.　Paper presentation, Budapest, Hungary 2018
⑤ 佐々木由美子・林恵「群馬県大泉町における多文化保育の課題と展望(6)」日本保育学会第 70 回大会　ポスター発表　2018 年
⑥ 林恵・佐々木由美子「群馬県大泉町における多文化保育の課題と展望(5)」日本保育学会第 70 回大会　ポスター発表　2018 年
⑦ 林恵・佐々木由美子・岡本拡子・関口吉運「ドイツ NRW 州における多文化保育の実践(2)－少年局への聞き取り調査から－」日本保育学会第 70 回大会　ポスター発表　2017 年
⑧ 佐々木由美子・林恵・岡本拡子・関口吉運「ドイツ NRW 州における多文化保育の実践(1)－少年局への聞き取り調査から－」日本保育学会第 70 回大会　ポスター発表　2017 年
⑨ 佐々木由美子・林恵・岡本拡子「多文化保育における外国人保育者の役割－ドイツ NRW 州における保育施設の事例から－」立正社会福祉学会　2016 年
⑩ 企画・司会者：林恵、話題提供者：佐々木由美子・知念みどり・尹愛順・指定討論者:卜田真一郎「外国人保育士の育成とこれからの役割 - 多文化が一般化される未来に向けて－」日本保育学会第 69 回大会　シンポジウム　2016 年

⑪　岡本拡子・林恵・佐々木由美子・塩澤恵美「遊び広場は多文化コミュニティに何をもたらしたか」　日本保育学会第 69 回大会　ポスター発表　2016 年
⑫　岡本拡子・林恵・佐々木由美子・小池亜子・岡本依子「多文化コミュニティにおける子どもの育ち―実践から見えてきた課題―」日本発達心理学会第 27 回大会　ラウンドテーブル　2016 年

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕
特になし

６．研究組織
(1)研究分担者
研究分担者氏名：佐々木　由美子
ローマ字氏名：YUMIKO　SASAKI
所属研究機関名：足利短期大学
部局名：その他部局等
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：80742874

研究分担者氏名：岡本　拡子
ローマ字氏名：HIROKO OKAMOTO
所属研究機関名：高崎健康福祉大学
部局名：人間発達学部
職名：教授
研究者番号（8 桁）：80309442

(2)研究協力者
なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。